

# 平成30年度 事業報告

在宅福祉センター

計 画	実 施 状 況
<p>1 事業</p> <p>(1)青陽園デイケアセンター 定員30人                      (2)ヘルパーステーション川口                      (3)居宅介護支援事業所川口                      (4)地域包括支援センター川口</p>	<p>計画どおり</p>
<p>2 経営方針</p>	<p>計画どおり</p>
<p>3 行動指針</p>	<p>計画どおり</p>
<p>4 収支目標</p> <p>デイサービスは、過年度実績参考から利用率84%（在宅サービス事業者運営状況調査報告書29年7月発表：デイサービス平均定員数32.1人、平均稼働率77.2%）、訪問介護事業は月平均利用者数94人、居宅介護支援事業は介護支援専門員1人当りプラン月平均35人を目標とする。地域包括は過年度実績参考から予防プラン月平均216人を目標とする。</p>	<p>デイケアセンターの平均利用率は、88.3%、訪問介護事業の月平均利用者数は97.1人、居宅介護支援事業の介護支援専門員1人当りプラン月平均38.2人、地域包括は予防プラン月平均229.5人で4事業所とも目標数値を上回ることができた。</p>
<p>5 実施内容</p>	
<p>(1) 施設の安心・安全な運営</p>	
<p>①利用者・家族の個人情報の保護を徹底し、介護保険、その他の法令を遵守し、適切なサービスの提供を行う。</p>	<p>①利用者等の個人情報保護を徹底するとともに、利用者から個人情報の使用に関する同意書を頂いて、個人情報の取扱いを適切に行った。また、介護保険関係法令を遵守したサービス提供に努めた。</p>
<p>② 防災訓練や消防設備点検等を行うとともに、天候や交通状況に注意し、丁寧・安全な車運転に努め、利用者のデイサービス送迎や自宅訪問を行う。</p>	<p>②定期的な設備点検の実施と10月には町会との合同防災訓練に参加した。毎朝のミーティングで交通安全の注意喚起を行い、利用者の送迎や自宅訪問等の安全運転に努めた。</p>
<p>③ ヒヤリハット報告や事故対策の周知等により事故防止に努めるとともに、手洗い消毒や情報周知等により感染症の防止に努める。</p>	<p>③予測する力・気づきの視点を養うためヒヤリハット報告書の内容を変更し、職員一人ひとりが事故予防防止の意識を高めるように取り組んだ。感染症予防のためインフルエンザ予防剤の活用、手洗い・うがいの励行に努め、利用者には予防接種の勧奨、手洗い消毒を実施した。結果、利用者からのインフルエンザ発症はゼロであった。</p>

<p>④ 尊厳保持、虐待防止、身体拘束防止についての委員会を定期開催し、身体拘束ゼロ、虐待ゼロを継続するため、外部研修への参加、園内研修の実施、身体的拘束等適正化のための指針の整備を行う。</p>	<p>④ 青陽園と連携して定期的に尊厳保持・虐待拘束防止委員会に参加した。外部研修では、八王子市認知症介護基礎研修、東京都認知症介護実践者研修を受講した。在宅合同研修では、外部から言語聴覚士を招き「コミュニケーション介護」の重要性を学び理解を深めた。「虐待の芽チェックリスト」により振り返りを実施するとともに、委員会から各職員に配布された教則本を指針として活用した。</p>
<p>⑤ 安心・安全なサービス提供に資するように関係情報の周知や研修等を行う。</p>	<p>⑤ 事業所が連絡を密にとり、情報の共有化を図り、利用者サービスの充実に取り組んだ。4事業所合同研修は定期的で開催し、各事業所においても内外の研修を実施した。</p>
<p>⑥ 地域包括支援センター川口は、市の運営部会での課題事項への改善取り組みを行い、良い評価については更なる向上に努める。</p>	<p>⑥ 地域包括支援センター川口は、八王子市高齢者あんしん相談センター運営部会事務局によるヒアリングにおいて、良好な事業活動との評価を受けた。</p>
<p>(2) 社会・利用者ニーズへの的確な対応</p>	
<p>① 利用者・家族の要望・意見を的確に把握し、利用者・家族に納得が得られるようにサービス内容などについてきめ細かく説明をする。</p>	<p>① 家族への連絡帳により、利用者及び家族の要望・意見を的確に把握するように努めた。また、サービス内容の説明を家族同席のもとで丁寧に行った。</p>
<p>② 相談・見学・体験等については丁寧な対応を行い、在宅福祉サービスについての理解を促進する。</p>	<p>② 問合せ、見学に対し、利用者・家族の要望に沿うように体験等を勧め、丁寧に対応し、在宅福祉サービスの理解を促進し、サービス利用に繋がるように努めた。</p>
<p>③ 苦情が寄せられた場合は、その方の立場に立ち真摯に受け止め、適切な対応を行い、必要な改善を図る。</p>	<p>③ 苦情を伝える利用者・家族の気持ちの受容、適切な対応、必要な改善や再発防止に努めた。</p>
<p>④ 家族介護者の介護負担軽減に寄与できるようにサービス提供に努める。</p>	<p>④ 連絡帳やサービス担当者会議等において家族からの要望等を伺い、利用者には負担がかからず、家族の介護負担軽減できるように努めた。</p>
<p>⑤ 行事や予定等の情報を適時提供して、利用者・家族との信頼関係の向上を図る。</p>	<p>⑤ 4月「うらら会」、5月「バスハイク」「ミニドライブ」、7月「七夕祭り」、8月「夏祭り」、9月「敬老会」を行った。他に「アニマルセラピー」を年2回、おやつ作りや教養講座等随時行った。行事や月間予定表等を利用者・家族に適時提供し、また、利用者送迎時に家族に予定等の説明をして、利用者・家族との信頼関係の向上に努めた。</p>
<p>⑥ 地域包括支援センター川口は、高齢者あんしん相談センターとして、地域住民のニーズに丁寧に対応する。</p>	<p>⑥ 地域住民の方からの相談・ニーズについては、相談者が安心して在宅生活を送れるように、丁寧な相談対応に努めた。</p>
<p>(3) 事業の安定的・効率的な運営</p>	
<p>① 青陽園デイケアセンターは、施設機能と広い敷地環境を利用して、利用者本位のサービスを提供する。</p>	<p>① 広い敷地を活用して、畑づくりや散歩等屋外の活動を積極的に実施し、収穫した野菜をおやつにしたり、花壇の花を材料にし絵手紙等の活動を行った。 第三者評価機関による「利用者調査」を実施し、ニーズ・課題についての把握を行った。</p>

<p>② ヘルパーステーション川口は、利用者の在宅生活の安定と継続を目標にサービスを提供する。</p>	<p>②利用者の在宅生活の安定と継続、家族介護の負担軽減に資するように努めた。事業所内外の研修等を行い、サービスの向上に努めた。</p>
<p>③ 居宅介護支援事業所川口は、利用者 と家族の意向を踏まえて、在宅生活を快適に営めるように計画書作成に努め、サービス提供事業者との連絡調整を行う。</p>	<p>③利用者 と家族の意向を踏まえて、在宅生活を快適に営むための計画書作成に努め、在宅サービスの調整を行った。また、サービス提供事業者との連絡等により在宅サービスの調整を行った。</p>
<p>④ 地域包括支援センター川口は、地域包括支援ケアシステム構築を目標に圏域の「地域住民・医療・介護・福祉」との連携体制の充実を図る。</p>	<p>④地域で安心して暮らしていけるように、圏域の医療・介護・福祉の関係機関、民生委員、町会等と連携をとって事業を遂行した。</p>
<p>⑤ 在宅4事業所が連携して事業の安定的・効率的な運営に努めるとともに、介護予防・日常生活支援総合事業関係の整備を行う。</p>	<p>⑤毎週の在宅連絡会や在宅合同研修を定期的開催した。4事業所の連携体制を強化し、事業の安定的・効率的な運営に努め、利用者・家族、地域へのサービス向上に繋げた。また、介護予防・日常生活支援総合事業関係は連携のもと取り組んだ。</p>
<p>⑥ 月々の稼働率等を分析し、幹部会で評価し、更に経営の充実に努める。</p>	<p>⑥月1回開催される幹部会で、経営、運営面での報告、連絡、相談を行い、稼働率を分析し評価を行い運営の充実に努めた。</p>
<p>(4) 職員の知識・技術の向上と職場の活性化</p>	
<p>① 運転技術の向上に努め交通事故ゼロを</p>	<p>①毎朝のミーティング時に、職員の体調確認を行い、業務の安全に努めた。また、外部研修では、「福祉車両安全運転講習会」「架装装置操作講習会」に参加し、学んだ知識をフィードバックし、安全運転技能の向上を図った。</p>
<p>② 各事業所でのOJTや研修、在宅4事業所合同での研修、外部の研修や資格取得研修などにより、職員の知識・技術の向上に努める。</p>	<p>② 事業所間で連携をとって安定した経営に努めるとともに、職員間情報交換を密に行い、4事業所合同による職員研修やOJTを実施して、職員の資質向上に努めた。青陽園との尊厳保持・虐待・拘束防止委員会においては、職員全員を対象とした「高齢者虐待防止に向けた施設従事者のための自己チェックリスト」を行った。包括では、主任ケアマネ更新1名、ケアマネ更新1名、デイでは認知症介護実践研修終了1名、居宅では社会福祉主事任用資格1名、社会福祉士資格を1名が取得した。</p>
<p>③ 法人行事や青陽園行事などへの取り組みを通じて、職員の連帯感を高める。</p>	<p>③ 法人行事や青陽園行事などのへ参加は、4事業所が連携をとり、職員間の連帯感を深めた。</p>

	④ 青陽園と連携して、年休の取得促進、働きやすい職場づくり、メンタルヘルス対策を行う。	④ 青陽園と連携を図り、職員の働く環境づくりの改善に努めた。年休取得の推進を行い、合わせて職員のメンタルヘルスチェックを実施した。
(5) 地域、後援会との連携		
	① 法人主催の夏祭り、地域町会との合同防災訓練、チャリティバザー等をとおして、地域、後援会との連携を図る。	① 法人主催のもと、夏祭りをとおして、地域や後援会と交流を図った。
	② 法人の広報誌、パンフレット、ホームページ等により適切な情報提供を行うとともに、「センターだより」等により事業PRを行う。	② 法人の広報誌「玉葉会だより」、法人と町会長との懇談会での事業説明、施設見学者や問合せに対し、事業説明やパンフレットの配布、青陽園ホームページに掲載して情報公開等により事業のPRを行った。
	③ 地域包括支援センター川口は、町会・自治会、シニアクラブや福祉施設等に対して福祉講座等を実施し、地域の介護予防や相談窓口となるように取り組む。	③ 健康や介護保険サービス関連の講座、介護予防教室や認知症サポーター養成講座などを実施して、地域の介護予防や相談窓口となるように取り組んだ。
	④ 関係事業所及び医療機関との情報交換等を行う。	④ 圏域の居宅介護支援事業所や医療機関との情報交換を行い、連携をとった。
	⑤ デイセンターは、ボランティアを積極的に取り入れ、活動の活性化と地域とのつながりを持つ。	⑤ 30年度は新たに3名を加え、総登録者数55名のボランティアによる日替わりの参加を得ながら活動に携わって頂いた。利用者とのコミュニケーションも図られるなど、二次的な効果も表れてきている。